



アクセスポイントタグの永続性

- [アクセスポイントタグの永続性に関する情報](#) (1 ページ)
- [AP タグの永続性の設定 \(GUI\)](#) (1 ページ)
- [AP タグの永続性の設定 \(CLI\)](#) (2 ページ)
- [AP タグの永続性の確認](#) (3 ページ)

アクセスポイントタグの永続性に関する情報

Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1 以降では、AP タグの永続性がコントローラでグローバルに有効になります。タグの永続性が有効になっているコントローラに AP が接続すると、マッピングされたタグが AP に保存され、各 AP にタグの設定が個別に書き込まれることはありません。

AP タグの永続性の設定 (GUI)

手順

ステップ 1 [Configuration] > [Tags & Profiles] > [Tags] を選択します。

ステップ 2 [AP] タブをクリックします。

ステップ 3 [Tag Source] タブで、[Enable AP Tag Persistency] チェックボックスをオンにして、AP タグの永続性をグローバルに設定します。

タグの永続性が有効になっているコントローラに AP が接続すると、マッピングされたタグが AP に保存され、タグの設定は各 AP に個別に書き込まれません。

ステップ 4 [Apply to Device] をクリックします。

次のタスク

AP にタグを保存します。

アクセスポイントでのタグの保存 (GUI)

手順

- ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [Access Points] を選択します。
 - ステップ 2 リストから AP をクリックします。
[Edit AP] ページが表示されます。
 - ステップ 3 [General] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Tags] セクションで、[Configuration] > [Tags & Profiles] > [Tags] ページで作成した、該当するポリシータグ、サイトタグ、および RF タグを指定します。
 - ステップ 5 [Policy] ドロップダウンリストから値を選択します。
 - ステップ 6 [Site] ドロップダウンリストから値を選択します。
 - ステップ 7 [RF] ドロップダウンリストから値を選択します。
 - ステップ 8 [Write Tag Config to AP] チェックボックスをオンにしてタグを AP にプッシュし、AP がコントローラ間で移動した場合でも、この情報を保存して記憶できるようにします。
 - ステップ 9 [Update & Apply to Device] をクリックします。
-

アクセスポイントに保存されているタグの削除

手順

- ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [Access Points] を選択します。
 - ステップ 2 AP のリストから AP をクリックします。
[Edit AP] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 [Edit AP] ウィンドウで、[Advanced] タブを選択します。
 - ステップ 4 [Set to Factory Default] セクションで、[Clear Resolved Tag Config] チェックボックスをオンにして、AP に保存されているタグをクリアします。
 - ステップ 5 [Update & Apply to Device] をクリックします。
-

AP タグの永続性の設定 (CLI)

始める前に

プライマリコントローラから設定されたポリシータグ、サイトタグ、および RF タグを AP で保持するためには、それらのタグがその AP が接続する他のコントローラにも存在する必要がある

あります。3つのタグがすべて存在しない場合、AP はデフォルトのポリシータグ、サイトタグ、および RF タグを適用します。同様に、タグポリシーは、1つまたは2つのタグが存在する場合でも適用されます。AP タグの永続性は、N+1 冗長性シナリオで AP をプライミングするのに役立ちます。タグの設定の詳細については、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/wireless/controller/9800/17-6/config-guide/b_wl_17_6_cg/m_config_model.html を参照してください。



(注) 有効にすると、AP 接続中に AP タグの永続性が実行されるため、コントローラにすでに接続している AP がある場合、それらの AP はコントローラに再接続する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ap tag persistency enable 例： Device(config)# ap tag persistency enable	AP タグの永続性を設定します。
ステップ 3	end 例： Device(config)# end	コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

AP タグの永続性の確認

プライマリコントローラで AP タグの永続性を確認するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap tag summary
Number of APs: 1
```

AP Name	AP Mac	Site Tag Name	Policy Tag Name	RF Tag
Cisco01_AP	xxxx.xxxx.xxxx	default-site-tag	OpenRoaming	
default-rf-tag	No	Static		



(注) [Tag Source] に [Static] または [Filter] が表示されている場合は、AP タグマッピングがプライマリコントローラで設定されていることを意味します。ソースに [Default] が表示されている場合は、AP がコントローラに接続するときにデフォルトのタグを受信したことを意味します。

セカンダリコントローラで AP タグの永続性を確認するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap tag summary
Number of APs: 1
```

AP Name	AP Mac	Site Tag Name	Policy Tag Name	RF Tag Name
Misconfigured	Tag Source			
Cisco01_AP	xxxx.xxxx.xxxx	default-site-tag	OpenRoaming	default-rf-tag
No	AP			



(注) [Tag Source] に [AP] が表示されている場合は、ポリシータグ、サイトタグ、および RF タグがプライマリコントローラで設定されたものと一致しており、AP タグがコントローラ間で保持されていることを意味します。